

平成 27 年度事業報告書

学校法人 湘南ふれあい学園

平成27年度 湘南医療大学の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私達は、その考えのもとに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

○ 保健医療学部(看護学科・リハビリテーション学科)

1. 理念の実践者を育てる
2. 質の高い教育を実践ときめ細やかな学生指導を行う
3. 研究の推進、地域連携活動の実践を行う
4. 質の高い教員の確保
5. 休学者・退学者ゼロを目指す

○ 事務部

1. 学生確保
 - ・入学試験制度の検討(大学入試センター入試の参画、A0入試の実施、指定校推薦制度)
 - ・学生確保の取り組み
 - 広報体制(広報会議、広報担当教員、広報担当事務)
 - 広報活動内容
 - a) 高校訪問(年間のべ約600校)
 - b) オープンキャンパス(5月～8月に重点)
 - c) 大学説明会(毎週大学で実施)
 - d) ホームページ(ふれあい医療コラムの作成)
 - e) 進学情報媒体の利用
 - f) 志願者動向分析
2. 学校運営
 - ・学生・教員・事務の連携を図り、大学運営を順調に行う
 - ・大学の安全管理
 - ・学生の履修管理や4年後の国家試験対策
 - ・次年度の教育課程、シラバス、学生便覧の作成
 - ・自己点検・評価への対応
 - ・大学の各種会議の運営

平成27年度 茅ヶ崎看護専門学校の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私達は、その考えのものに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
 - 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
 - 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
- そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

看護学科

教育者としての資質を高め、その役割を遂行する。

- ・教育の本質を見極める思考を深化させる。
- ・学修者のバックグラウンドを理解した上で教育者として向き合う。
- ・学修者のモチベーションを高める関わりを維持する。
- ・学修者にとって魅力ある教授方法を高める。
- ・日々の教育実践の評価を通し、教育観を深化させる。

看護学の専門家としての研究的能力を高める。

- ・自分自身の専門性を高めるための研究的視点を深める。
- ・学会研究会等において専門分野の研鑽に努める。
- ・研究テーマをひとつ挙げ、研究計画を構築できるよう準備する。
- ・研究テーマに沿った文献を読み通す習慣化を習得する。
- ・研究テーマを追求するための他者との交流を持つ。

事務課

- ・定員80名確保
受験倍率2.8倍目標(受験者数224名確保)
- ・退学者0名を目標
チューター制度の活用、学生面談の定例化等、積極的な学生支援を行う。
- ・ふれあい奨学金利用者の拡大

平成27年度 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私たちは、その考えのもとに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生に最適な教育サービスを提供し、支援します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

- 1、理学療法学科
 - ①学生募集の強化
 - ②国家試験対策の強化(合格率全国平均以上)
 - ③充実した教育・細かな指導・適正な評価
 - ④メリハリのある指導
 - ⑤成績下位者の学力の底上げ
 - ⑥臨床研修不適応者への対応策検討
 - ⑦成績上位者を伸ばす教育の実施
 - ⑧臨床参加研修の適切な運営管理
 - ⑨退学率6%以下
- 2、作業療法学科
 - ①学生募集の強化
 - ②国家試験対策の強化(合格率全国平均以上)
 - ③教育内容の整備
 - ④学生に対する支援
 - ⑤退学・休学防止(退学率6%以下)
 - ⑥ふれあいグループとの連携強化
- 3、言語聴覚学科
 - ①学生募集の強化
 - ②国家試験対策を強化(合格率全国平均以上)
 - ③学科運営を軌道の乗せ、大卒2年課程の基盤を確立
 - ④知識・経験・人間性が備わった臨床家の育成実現のための教育システムの構築
 - ⑤退学・休学防止を強化
- 4、社会福祉専攻科
 - ①受講生募集の強化
 - ②相談援助実習受け入れ施設との連携強化
 - ③教育内容の整備及び留年・退学者の防止
 - ④国家試験合格率の向上(合格率全国平均以上)
- 5、事務課
 - ③運営管理マニュアルの点検

平成27年度 下田看護専門学校の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私たちは、その考えのもとに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
 - 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
 - 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
- そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

看護学科

- ・実習施設との連携
実習施設管理者および実習指導者との連携を密にして指導方法の検討および共有化を図る。
- ・国家試験の合格率を上げる(全国平均以上100%を目指す)
教材の十分な活用と学内模試試験・確認テストの更なる充実
- ・休退学の防止
学力低迷による休退学を減らすため、学生の生活態度、成績に気を配り、兆候を早期にキャッチできるよう対応

事務課

- ・学生募集対策(定員40名を確保・年内資料請求1,180通)
より良い学生の確保を目指す
学校のイメージアップをはかる
入学試験の改善 (AO・推薦入試で70%以上の確保、社会人入試の追加)
オープンキャンパスの開催 (8月までに6回実施)
- ・円滑な学校事務の遂行
通常業務の遂行
国家試験対策のフォロー

平成27年度 医療ビジネス観光情報専門学校の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私たちは、その考えのもとに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
- 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

1. 医療ビジネス学科
 - ・就職率100%達成(グループに貢献できる人材の育成及びグループへの人材輩出)
 - ・定員20名確保(大学への広報やオープンキャンパスの充実を図る)
 - ・卒業3年後の離職率0%(キャリア教育により社会人としてのメンタリティを強化する)
2. 観光学科
 - ・就職率100%達成。全員進級、全員卒業をめざし指導を行う
 - ・定員40名確保(トラベル・交通専攻学生数の増加とホテル・ブライダル専攻学生数の維持)
 - ・国家試験、検定・資格等の取得指導を徹底する
3. 情報システム学科
 - ・IT系資格の対策を充実させ、卒業までに学生1人最低1つの資格を取得させる
 - ・能力適性試験の結果を踏まえたキャリアカウンセリングを年間2回以上実施する
 - ・就職活動期間を設けたり、インターンシップを積極的に実施し就職活動のサポートを充実させる
4. 事務課
 - ・定員100名(医療20名、観光・情報40名)を確保する
→新規来校者180名、出願率60%、日本人比率80%
 - ・業務改善推進により時間外を前年比20%削減する

平成27年度 みどり幼稚園の目指すもの

平成27年4月1日

理 念

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

私たちは、その考えのもとに、理念の実践者になります

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践に努めます
 - 2 ^{いのち}生命を全うしていただくための知識・技術の習得に務めます
 - 3 その人らしさと個性を尊重し敬愛します
- そして、すべての人々の幸せに役立ちます

事業基本方針

- 1 私たちは、PDC活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

全職員参加

1. PDC活動の推進
(部門・個人PDCの精度向上)
2. 安全管理体制の強化
(委員会活動の活性、規程類の再点検)
3. FD・SD活動、ふれあい研修活動の推進
(授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上)
4. 業務改善運動の推進及び6S活動の実践
(業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化)

全部門の整備・充実

- ・幼稚園の教育方針を踏まえて環境設定し、保育活動、行事を充実させていく
- ・教職員は常にスキルアップし、園児達の成長を見守り、指導する
- ・英語活動に力をいれ、園内での活動を公開、参観なども増やしていく
- ・丈夫な体作りの取り組みとして、体操、乾布摩擦を継続していく
- ・運動会(10月)・発表会(12月)・作品展(2月)を企画、内容の充実を図る
- ・危機管理対策として避難訓練を継続的に行い、安全確保に繋げる
- ・年間行事計画の確認、カリキュラム作成、各学年の目標を作成する
- ・未就園児対象の園内見学の開始 ホームページの充実を図る 募集要項作成
- ・新年度園児募集解禁 ポスター掲示 募集要項配布 入園説明会開催
- ・新入園児受付 親子面接 各学年の定員確保に繋げていく
- ・一日入園 新入園児受け入れ準備
- ・一年間の締めくくり 卒園式・終業式 次年度の準備

法人の概要

【沿革】

年 月		沿革
平成 6 年	1 月	準学校法人 湘南ふれあい学園設置
	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校創立
平成 10 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校創立
平成 12 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科設置
平成 13 年	1 月	学校法人横浜アカデミー
平成 14 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミー日本語研修科設置
平成 16 年	4 月	下田看護専門学校創立 専門学校横浜外語ビジネスアカデミー美容学科・診療情報管理学科・臨床工学学科設置
平成 17 年	4 月	専門学校横浜外語ビジネスアカデミーをふれあい横浜専門学校に校名変更
平成 18 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 社会福祉学科を精神社会福祉学科へ名称変更 ふれあい横浜専門学校 美容学科入学定員変更 総合電子専門学校 学科再編（設置及び変更）
平成 20 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 理学療法学科入学定員変更
平成 21 年	4 月	総合電子専門学校 学科再編（名称変更等）
平成 22 年	4 月	茅ヶ崎看護福祉専門学校を茅ヶ崎看護専門学校に校名変更及び看護学科入学定員変更
平成 23 年	4 月	ふれあい横浜専門学校 観光学科入学定員変更 総合電子専門学校 研究科設置
平成 24 年	4 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 言語聴覚学科（2 年制）設置及び作業療法学科入学定員変更 総合電子専門学校 医療マネジメント科設置及び情報デザイン科入学定員変更
	6 月	湘南医療大学（仮称）大学設立準備室設置
平成 26 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 南湖校舎移転 湘南医療大学（仮称）設置認可申請書提出
	4 月	学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転 総合電子専門学校を医療ビジネス観光情報専門学校に校名変更及び学科再編
	10 月	湘南医療大学 設置認可 学校法人湘南ふれあい学園寄附行為変更認可
平成 27 年	4 月	湘南医療大学開学 学校法人湘南ふれあい学園本部事務所移転
平成 28 年	3 月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校介護福祉士実務者研修設置

【設置する学校】

学校名	学部・学科・専攻等（入学定員）		開学・開校年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科（80）	平成 27 年度
		リハビリテーション学科 （理学療法学専攻）（40）	
		リハビリテーション学科 （作業療法学専攻）（40）	
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科（80）		平成 6 年度
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科（80）		平成 10 年度
	作業療法学科（20）		
	言語聴覚学科（35）		
	付帯教育事業	社会福祉専攻科（80）	
		介護福祉士実務者研修（30）	
下田看護専門学校	看護学科（40）		平成 16 年度
医療ビジネス観光情報専門学校	医療ビジネス学科（20）		昭和 61 年度
	観光学科（40）		
	情報システム学科（40）		
	医療ビジネス科（20）		
	観光・情報ビジネス科（40）		
	ホテル・ブライダル科（40）		
	ゲーム・モバイルアプリ科（40）		
みどり幼稚園	（200）		昭和 24 年度

【学生数】

[湘南医療大学]

		入学定員	編入学定員	平成 27 年度在籍者数（現員）				平成 27 年度 卒業生
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
保健医療学部	看護学科	80	10	97	0	0	0	0
	リハビリテーション学科 （理学療法学専攻）	40	0	43	0	0	0	0
	リハビリテーション学科 （作業療法学専攻）	40	0	40	0	0	0	0

[茅ヶ崎看護専門学校]

	入学定員	平成 27 年度在籍者数（現員）			平成 27 年度 卒業生
		1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	80	82	76	77	76

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

	入学定員	平成 27 年度在籍者数（現員）				平成 27 年度 卒業生
		1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	
理学療法学科	80	94	68	71	51	50
作業療法学科	20	19	17	17	16	16
言語聴覚学科	35	36	37			37
社会福祉専攻科 ※1	80	63	4			
介護福祉士実務者研修 ※2	30	28				

※1 社会福祉専攻科は 1 年 9 ヶ月の通信課程

※2 介護福祉士実務者研修は 6 ヶ月の通信課程

[下田看護専門学校]

	入学定員	平成 27 年度在籍者数（現員）			平成 27 年度 卒業生
		1 年生	2 年生	3 年生	
看護学科	40	39	41	40	38

[医療ビジネス観光情報専門学校]

	入学定員	平成 27 年度在籍者数（現員）		平成 27 年度 卒業生
		1 年生	2 年生	
医療ビジネス学科	20	18		
観光学科	40	70		
情報システム学科	40	51		
医療ビジネス科	20		14	14
ホテル・ブライダル科	40		14	11
観光・情報ビジネス科	40		29	29
ゲーム・モバイルアプリ科	40		17	16

[みどり幼稚園]

	定員	平成 27 年度在籍者数（現員）			平成 27 年度 卒園生
		年少	年中	年長	
	200	60	70	51	51

【役員・教職員の人数】

役員

役員、評議員	定数	現員
理事	6～8	6
監事	2	2
評議員	13～17	13

理事会・評議員会開催状況

	開催回数
理事会	12回
評議員会	12回

教職員数

学校名	教員		職員 ※2
	本務 ※1	兼務	
湘南医療大学	27	28	14
茅ヶ崎看護専門学校	20	76	6
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	23	49	10
下田看護専門学校	13	40	5
医療ビジネス観光情報専門学校	11	34	4
みどり幼稚園	20	0	4
本部事務局	2	研修センター 59	6

※1 本務には、非常勤教員も含みます。

※2 非常勤職員も含みます。

教員内訳

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保 健	看護学科		2	6	0	1	0	1	0	1	0	2	2	11
医 療 学部	リハビリテーション	理学療法学 専攻	3	0	1	2	1	0	0	0	0	0	5	2
		作業療法学 専攻	3	0	1	0	2	1	0	0	0	0	6	1
	学科		8	6	2	3	3	2	0	1	0	2	13	14

2 事業の概要

(1) 主な事業報告

① 湘南医療大学

1 理念の実践

全体研修、教授会、その他委員会等各種会議をととして、全教職員、学生に対して「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を礎とする、思いやりのある教育活動を実践することを確認し、行動した。

2 教育活動の実践

開学年度である平成27年度は、大学設置の趣旨、目的を全教職員で共有し、学生が健康で有意義な学生生活を送れるよう教育活動に努力した。そして、看護学科100名、リハビリテーション学科87名の第1期生を迎えて新しい歴史を開いた年であった。

ア) 学修指導

オリエンテーションガイダンスを通じて、看護学科及びリハビリテーション学科の設置趣旨の理解促進、及び学生便覧、シラバス等により4年間にわたる系統的な学習計画の指導・説明を実施した。また、大学設置時の文部科学省からの留意事項にあるCAP制の導入について、検討した結果、単位の過剰登録を防ぐために、CAP制を導入し、半期25単位、通年で45単位を上限とすることを授業科目履修規程、学生便覧に明記し、学生に周知した。

イ) 基礎学力検査の実施

初年次教育の充実を図るために、入学直後に基礎学力試験を実施した。それをもとに成績下位の学生は基礎的科目の補講を実施。チューター及び担任とともに、学生の学力課題に対して早期に取り組んだ。

ウ) オフィスアワーの実施

学生が主体性を持って自主的に学習計画を進めるにあたり、オフィスアワーを活用できる環境を整備し、ガイダンス、教員研究室前の掲示等を活用して、学生のオフィスアワーの活用を促す取り組みを行った。

3 F D活動

教員の教育力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）の取り組みの一環として、FD委員会を設置し、学生による授業評価アンケート、教員相互の授業参観、新任教員を対象とした教育方法・学生指導に関する研修会を企画実施した。

ア) 学生による授業評価アンケート

授業改善アンケートを実施。結果は授業担当者にフィードバックされるとともに、次年度の授業運営における参考として活用した。

イ) 教員相互の授業参観

効果的な授業の進め方、目的に沿った授業運営方法等について、3科目を対象として授業参観を実施。実施後、参観した教員にはワークシートを提出してもらい、教員個々の授業運営への活用や今後の授業参観の運営方法に関する改善点等について情報収集を行った。

ウ) 新任教員を対象とした教育方法に関する研修

本学のエデュケーション方針、行動指針を理解し、教育目標の実現に向けて最大の効果を発揮することをねらいとして、新任教員を対象に教育方法に関する研修を実施した。

4 私立大学等改革総合支援事業

大学開学年度にあたり、文科省に提出した大学設置計画の履行遵守を念頭に、より良い教育・より質の高い教育を目標を達成するための指針とするために、本学は大学運営管理会議において私立大学経常費補助金事業の一つである「私立大学等改革総合支援事業」の評価項目に照らし合わせて状況を確認し、大学教育の質的転換を図られるように課題に取り組んだ。

5 学生募集活動

学生募集については、計画的広報活動のもと、看護学科については、516名の志願者に対して、アドミッションポリシーに基づく選考の結果、82名の入学者（定員超過率1.02）であった。また、リハビリテーション学科は443名の志願者に対して、選考の結果、86名の入学者（定員超過率1.07）であった。

6 地域交流活動

横浜市の主催である大学・都市パートナーシップ協議会に参加。ヨコハマ大学まつりにおいて、

①「絵本から飛び出した認知症のおばあちゃんの人生の木」（看護学科牛田・塚原先生）

②「人が健康を維持するために～理学療法士・作業療法士はこんな仕事」（リハビリテーション学科竹原先生）

が本学の代表として体験授業を行った。

また、第1回大学祭（文化祭）において、地域の子供から大人、及び本学を志願する学生に対して体験授業を行った。また、近隣の中学校から要請を受けて、中学生の大学見学及び体験授業を行った。

7 大学院設置構想

湘南医療大学大学院設置準備室を開設し、大学院の設置基本構想案の策定（名称、設置趣旨、目的、研究科の構成、学生定員、専攻の構成、授与する学位、領域の概要、教員組織、教育課程編成の特色等）を検討した。本学の理念を基盤として、教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成、地域医療構想に基づく医療提供体制を具現化できる高度専門的医療従事者の養成を目標として、年間8回に渡り、協議を重ねた。

②茅ヶ崎看護専門学校

ア) 学生募集活動

指定校推薦制度の見直し、学校説明会の内容変更、学校ガイダンス228名の総出願者数を得て、入学定員80名を確保することができた。特にA0入試及び社会人入試の出願者数が前年度に対して伸び率が上がった。尚、ふれあいグループ病院施設での一日看護体験、入試対策説明会を実施したこと、また、ふれあいグループの奨学金制度の周知が徹底したこともあり、来校者数も増加し、志願者の確保に努力した。

イ) カリキュラムの効果的な実践ができる体制

①授業時間外の学習強化（朝学習5分間テスト）②個人の学習状況の開示 ③定期面談の実施 ④チューター制度導入による学年縦割りのグループ指導 ⑤長期休暇中の課題の作成 以上の5項目に積極的に取り組んだ結果、遅刻・欠席者、退学者数及び成績不良者の減少につながり、国家試験合格率が向上した。（74名中73名合格・合格率98.6%）

③茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

ア) 学生募集活動

本校専願者の入学を早期に決定する対策を講じた結果、来校者の半数以上を出願に結び付けることができた。新卒者対象学科に対して、学生募集に苦慮した大卒・既卒者を対象とする言語聴覚学科の募集活動は、次年度に向けて給付金等社会人制度の導入により、転職しやすい魅力ある仕事としてアピールする方法を再構築していく。

イ) 教育の特色の鮮明化と魅力あるカリキュラムの実施

成績不振者、留年生、科目再履修生の対策として放課後の補講やゼミの学習指導を実施し、一定の成果を収めた。しかし、自主的学習の促進、国家試験対策や模擬試験の対策が充分ではなく、国家試験合格率向上に向けて課題を残す一年となった。但し、放課後ゼミ活動は、成績優秀者の学習の場にとっては、更に成績を伸ばす機会となり次年度も継続していく。そして、学習の習慣化やリハビリテーションの仕事の醍醐味や楽しさを伝える授業など、教員の授業法にも工夫し、意識・意欲低下の学生に医療人として必要な要素をカリキュラムに取り入れる検討を行った。

ウ) 学生会活動・サークル活動

文化祭等の行事により学年・学科を超えた活動で交流を深めることができた。また、地域住民との交流が盛んになり、公開講座の実施、文化祭への出店をとおして、地域交流活動を深めた。サークル活動においては、女子バスケットボールサークルが専門学校全国大会に出場を果たした。

④下田看護専門学校

ア) 学生募集活動

今年度は、前年度より踏襲した入試制度、指定校推薦制度の見直し、学校説明会内容の変更、学校ガイダンスへの積極参加などに取り組んだ結果、昨年度とほぼ同数の出願者数を確保した。少子化に加えて看護系大学の新設等により募集活動は困難な状況ではあったが、学生受け入れ態勢の充実、本校の特色、そして、望ましい学生像を高等学校に伝える地道な募集活動を徹底した。また、課題となっている社会人学生の受け入れについては、社会人入試制度を活用して積極的に推進したいと考えている。

イ) 教育内容の充実・改善・指導方針

教育指導は、教員間の共通認識を持ち、教員受持ち体制をとったグループ指導・個別指導の徹底が実行できた。また、退学者を出さないために次の5の支援策 1) 授業時間外の学習強化（朝学習の実施）2) 個人成績の提示・確認テスト結果の保護者への送付 3) 定期面談の実施 4) 長期休暇中の課題の作成 5) 確認テスト成績不振者対象の補習 を積極的に行った。その結果、遅刻者・欠席者が減少し、学生の出席状況がスムーズに行えるようになり、また、朝学習や確認テストの結果を基に定期面談を行い、精神面の不安を持つ者への支援を行うことができた。その結果、学業不振による退学者も0であり、国家試験の結果は、97.4%（38名中37名合格）の好成績を収めた。

⑤医療ビジネス観光情報専門学校

ア) 資格試験・資格取得に向けた取組

「一人1資格以上取得」を目標にゼミ授業・検定対策を実施した。その結果、学科により異なるが、一人5.9資格から9.5資格を取得することができ、成果を上げることができた。今年度は上位資格の取得者・取得率の向上を目標に努力する。

イ) 職業実践専門課程導入準備

近年の専修学校を取り巻く状況などに鑑み、ふれあいグループ医療・福祉施設や関連企業等と緊密に連携し、職業実務の知識・技術を身に付けることができる実践的な職業教育を目指し、『職業実践専門課程』の認定に向けた実績作りを進め、平成28年度の申請に向けた準備を整えた。

ウ) 志願者・入学生の確保

平成27年度は、留学生を含めて出願者159名入学者146名を受け入れた。今年度は、医療ビジネス学科の再編を受けて病院の医事課、総務課、更には、医療情報技術にも通用する学生を養成することを目標に学生募集活動を展開する。

エ) 魅力あるカリキュラムの実施

就職力を身につけるために全教職員が学生指導に関わり、授業から就職活動から卒業まで一貫した指導内容の充実を図った。①自立した社会人に必要とされる専門スキルとコミュニケーション力、人間力を身につけさせる。②学生各人の能力に応じた指導目標を設定し、就職に活かせる専門技術を身につける。③医療従事者をはじめとする各学科における専門性を身につけるためのカリキュラムと指導を展開 ④技術及び能力の顕在化 上記4項目を学生が実感できる力を養うべく、実践的に取り組んだ。

オ) 就職力向上

就職希望者65名に対して、内定者60名（92.3%）となった。医療ビジネス科14名中11名がふれあいグループ病院施設の医事・総務課に就職し、入学から就職に及ぶ医療事務一貫養成教育として学校の使命・役割・目的を果たした。

⑥みどり幼稚園

ア) 理念の実践

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を常に念頭に置き、やさしさと思いやりのある教育を実践し、園児一人一人の個性を大切に、安全で楽しい場所であり、子どもたちに何が必要であるかを考えて行事や保育活動を行った。

イ) 保護者との交流活動

月1回、クラスの様子や活動の内容などをクラスだよりである「たけのこ」を配布。クラス懇談会の開催や誕生児の保護者様と園長・主任の懇親会の開催等を通して保護者会と連携をとり、園の行事や保育活動などに協力を得て、目的を達成した。

ウ) 志願者・入園者の確保

- ①みどり幼稚園の特色や、保育活動、教育方針などを理解していただけるように親切かつ丁寧に対応してきた。
- ②親子の交流、保護者同士の情報交換の場として、放課後「はまっこ広場」と称して園庭を開放した。
- ③みどりっこまつり、講演会、人形劇鑑賞、お餅つきなどを行い、親子や地域交流に努めた。
- ④教職員は常に情報を共有し、来園者には親切かつ丁寧に対応するよう心掛けた。

エ) 教育の特色の鮮明化と魅力あるカリキュラムの実施について

- ①「丈夫な体を持つ子に」を大きな目標として年間を通して乾布摩擦の励行や縄跳び、鉄棒など達成感が持てる活動も取り入れた。また、絵本活動にも力を入れ、絵本の読み聞かせの大切さを広める活動を行った。
- ②保育活動や行事を通して年長・年中・年少の異年齢の交流も深めてきた。
- ③近隣の小学校・中学校・高校と定期的に交流を重ね、園児、生徒、学生がふれあう時間を持った。
- ④ふれあいグループの専門学校（看護学校、リハ校）の実習生と交流を重ね、幼児理解に繋げてきた。
- ⑤一人ひとりの個性を大切に、その子にあった言葉かけや対応を行ってきた。

⑦学校法人湘南ふれあい学園法人本部

1 横浜市幼保連携型認定こども園みどり幼稚園（仮称）整備事業の採択

平成26年度から準備を進めてきたみどり幼稚園の幼保連携認定こども園への移行について、平成28年1月の整備事業申請書の提出した後、理事長及び園長の面接を経て、平成28年4月に当該事業の採択が決定した。これにより、平成29年4月の開園移行に向けて準備を進めることになった。

2 学園諸規程の整備

前年度から引き続き、現行規程の見直し及び審査時に指導を受けた未整備規程の規程を策定した。特に、大学開学初年度であり、科学研究費等公的研究費の規程を策定し、平成28年度からの研究者の研究活動に支障がないように整備した。大学開学後、4年間は現行規程規則を遵守する予定であるが、実際の運営に照らし合わせて規程規則の改定及び追加する場合には、各会議等に諮り対応していく。

3 社会的責任を果たす経営体制の強化

昨年度に引き続き、監事と会計監査人が連携し、会計監査及び業務監査を行った。茅ヶ崎リハビリテーション専門学校及び湘南医療大学において、内部監査並びに監事監査（業務監査）を実施し、監事から責任者（学長・副学校長）に対するヒアリングを通して問題点・課題点の早期解決に向けた指導、及び書類の整備状況について点検を徹底的にを行い、大学運営等学園全体の運営の質的向上を図った。また、情報公開につきましても、財務諸表及び事業計画・事業報告を公開し、透明性を高めている。また、専門学校及び幼稚園においては例年どおり、自己点検評価についてもホームページにおいて公開した。平成28年度は、大学ポर्टレートに参加し、学校教育法施行規則にかかる教育研究活動等の情報公開をHPに掲載し、湘南医療大学をはじめ、湘南ふれあい学園の活動を理解していただけるよう努力する。

4 ふれあいグループ医療福祉施設と連携した広報活動

学園の母体であるふれあいグループと連携を図り、グループが発行する健康新聞に学園各校の近況の記事の掲載や学生募集につながる広告を依頼し、本学校法人が、医療・保健・福祉・教育が一体となっているグループの一員であるイメージを神奈川県に広める活動を開始した。また、平成28年度は、地域の中学生・高校生を対象として、学校と病院が連携した「医療の職場体験」を実施し、医療の現場を体験して将来の職業を考えてもらえる広報活動も展開する予定にしている。

5 設備等教育・研究活動の環境整備

平成27年度の主な教育環境整備

- ①湘南医療大学において体育館の空調機器工事、教育用備品及び図書整備
 - ②茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の空調機器工事
- を実施した。学生の教育活動を支援する環境を維持していくため、ふれあいグループとの協調を図り、財政基盤を確かなものにして、整備・充実を図る所存である。

6 学生支援の充実

- ア) 各校とも担任制又はチューター制の下、教育相談、学生相談、資格試験取得相談まで、就学支援を行い、教員並びにカウンセラーが迅速に相談に応じることができる体制を整えている。また、各校とも社会人学生や留学生が増加しており、多様化する学生への対応として、放課後の補講（基礎学力）などの充実化を図った。
- イ) 資格の取得支援として、（専門士、高度専門士、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、診療報酬請求事務能力認定試験、ホテルビジネス実務検定、国内旅行業務取扱管理者、応用情報技術者試験など）毎日の小テスト、復習テスト、模擬試験などを実施し、目指す国家資格等取得の目的を大半が達成した。
- ウ) 経済的支援として、ふれあいグループ奨学金制度に加えて、公的奨学金や学資ローン等の情報提供を行い、経済的な修学支援体制の充実を努めた。
- オ) 健康支援として、本学園全ての施設内が平成26年10月から全面禁煙の実施を継続しています。また、ふれあいグループの健康友の会と協力して、病院実習時に必要な検査健診、又はインフルエンザ対策などを実施した。
- カ) 茅ヶ崎地区の学生寮は、茅ヶ崎看護専門学校の学生に加え、湘南医療大学の学生の入居も始まった。遠方から入学した学生にとっては、安心安全であり、また、学園の理念の下での集団生活は、学生の成長の場となっています。

⑧教育部会・大学部会活動 平成27年度実施プログラム

月 日	教育部会	大学部会
4月19日/5月17日	チーム医療に関する調査・研究とFD/SDの進め方 ○FDビデオ研修：①プレゼンテーションスライドは控えめに（授業方法）②学生の積極的な授業参加を促すテクニック ○教職員の倫理規定（教育用ハンドブックの内容） ○新年度学生募集活動について（昨年度の反省と新年度の学生募集） ○学生募集課題の検証と新年度の教員も含めた協力体制（意見交換） ○マナー講座（学生/保護者対応）	
6月14日	専門部会別研修会： ○教育機関が進めているチーム医療研究・・・湘南医療大学 ○実習の課題からチーム医療を考える・・・茅ヶ崎看護専門学校 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 ○チーム医療を見据えた教育プログラムの構築をめざして・・・グループ別討論会	
7月19日/8月16日	○ふれあい学園の懲戒ガイドライン・・・学園本部 ○道徳教育とは：カントの定言命法から・・・大学副学長 ○学校における学生指導について・・・医療ビジネス校学校長 ○職域別研修 ① 図解で「見せる」プレゼン資料を作成する ② 毎回の授業をトピックベースにしてシラバスを構成する ③ 講義内容に基づいたワークシートを作成する ④ 学生募集と広報	
9月13日/10月18日	PDC（前月・次月）：学園各校の学生募集対策 ・・・・各校事務責任者 & 学園本部 コンプライアンス：個人情報保護と情報漏えい防止対策 ・・・・学園本部（研修センター） マナー/6S：接遇マナーの重要性・・・茅ヶ崎看護校 FD研修：学生指導法・・・茅ヶ崎リハ校 （学生へのサービスやコミュニケーション） （学生の学力向上を目指す工夫etc.） SD研修：ビジネススキルの向上・・・医療ビジネス校 「ビジネス文書&メールのマナー」 管理職のFD/SD研修 「教学IRについて」「入学前教育について」	FD研修①： シラバス作成方法とカリキュラムマネジメントの検証（総論） FD研修②： シラバス作成方法とカリキュラムマネジメントの検証（学科別） SD研修①： 教育の質的転換に関するSD研修「大学教育の質的転換に向けて（答申）の理解」 SD研修②： 入試運営と課題、広報分析、学生募集の市場ニーズ、WEB検証
11月16日/12月13日	○PDC（前月・次月）：各校の国試（資格試験）対策・・・下田校 ○コンプライアンス：学生（園児）の健康管理と感染予防・・・茅ヶ崎看護 ○マナー/6S：整理・整頓・・・リハ校 FD研修：教育カリキュラム 「シラバスやコマシラバスに関する内容」・・・部会長 SD研修：事務スキル「ビジネスマナーの向上」 （社会人としての身だしなみについて）・・・学園本部	F D 研修①：科学研究費応募にあたって（科研費説明） F D 研修②：研究活動に関する不正防止研修 （研究倫理教育及び研究活動上の不正行為防止の内容） ●研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン ●研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン 研究不正防止計画（指針）/行動規範 研究不正防止マニュアル/コンプライアンス教育計画等
1月17日/3月14日	○PDC（前月・次月）：業務改善・・・町田校 ○コンプライアンス：SNSの利用について・学園本部 ○マナー：言葉使い・心使い・・・町田校 ○6S：作法・・・リハ校 FD研修：自己点検・評価・・・茅ヶ崎看護校 （休退学者を減少させる/個別指導等学習意欲向上の工夫/授業評価の実施と教員へのフィードバックetc.） SD研修：危機管理・・・茅ヶ崎看護校 （災害時の役割分担等/避難経路や備蓄品）	F D 研修：初年度の教育の振り返り（教務） （休退学者の防止/個別指導等学習意欲の向上の工夫/国家試験対策準備など、初年次教育全般を振り返る） S D 研修：初年度の教育の振り返り（事務） （初年次の教務・学生サービスのあり方について）
2月21日	医 療 研 究 会	

平成27年度 第12回 医療研究会プログラム

教育部会テーマ：「チーム医療」を深める教育プログラムはあるか

入試対策講座における受験者の成績について	茅ヶ崎看護専門学校
学生をサポートする図書室をめざして	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
ふれあい医療福祉研修センターについて	ふれあい医療福祉研修センター
高大接続改革進行状況について	学園本部
看護学実習における不合格学生の傾向	茅ヶ崎看護専門学校
OT学科学生のチーム医療への意識向上への取り組み	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
ボランティア体験が看護学生にもたらす効果	茅ヶ崎看護専門学校
臨床実習における実習指導者の経験年数と学生評価の実際について	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
選択肢を選ぶ際の「自信の状況調査」の導入について	下田看護専門学校
適性検査に基づいてチーム構成に関する一考察	医療ビジネス観光情報専門学校
留年者の学力向上に向けた原因の分析	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
仕事力を高める教育カリキュラム	医療ビジネス観光情報専門学校
他校のカリキュラムデザインの取り組みを紹介・研究する	下田看護専門学校
朝学習による遅刻予防と成績向上への効果	茅ヶ崎看護専門学校
研修を通して、教員力を高める取り組み	みどり幼稚園
学会発表報告	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
自分を知るエニアグラムの知恵	みどり幼稚園
大洋州における青年海外協力隊活動(理学療法)とICF活用の試み	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
ペーシング障害の神経基盤	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
国家試験とこれからの観光業界	医療ビジネス観光情報専門学校

基調講演 「学園卒業生に求められる対人援助技術」	ふれあい平塚ホスピタル医療社会サービス部
--------------------------	----------------------

パネルディスカッション「医療スタッフに求められる援助技術教育を探る」	
------------------------------------	--

大学部会テーマ: 湘南医療大学の研究活動とチーム医療

「学生の動機づけを高める学習環境デザイン」	湘南医療大学保健医療学部 看護学科 個人研究発表
「成人先天性心疾患の青年期にある患者の看護に対する看護師の認識 - レジリエンスの観点から -」	
「在宅終末期がん患者の家族介護者に実施したアロママッサージの主観的反応」	
「健康とは何か―地域における『健康』と『病い』の語りから」	
「洗髪における看護師の手の振動が患者の心身に及ぼす影響」	
「ターミナル期にある患者の家族に関するQOLの継続的研究」	
「死後の生命の否定と死の問題の解決―岸本英夫の生き方―」	
「生死の苦悩とその救済に関する一考察―西田幾多郎の「場所的論理と宗教的世界観」論文より―」	
「医療機関を受診した乳幼児期のふたごの事故」	
「予防的家族看護介入プログラムによる要介護高齢者の退院支援の有効性」	
「助産師の専門的自律性測定尺度の開発」	
「チーム医療に関する国内文献レビュー」	看護学科共同研究
「特別支援学校の自立活動教諭に対する本学教員としての教員研修支援について」	湘南医療大学保健医療学部 リハビリテーション学科 個人研究発表
「見学実習における多職種連携教育に対する意識と社会的スキルの変化に関する検討―RIPLSとKiss-18による評価―」	
「CT画像による骨盤周囲筋の加齢変化」	
「在宅高齢者に対する介護予防事業による運動プログラムが運動機能と自己効力感に及ぼす継続的効果」	
「黄体前期におこる着地時の膝関節運動と前十字靱帯損傷」	
「高齢者におけるペットボトル開栓に必要な握力に関する研究」	
「女子サッカー選手の外傷・障害予防を目指して～外傷・障害既往と身体特性との関連性についての検討～」	
「脳プログラムを改変させる作業療法」	
「Application of CIMT for People with Severe Chronic Plegic Hand」	
「医療観察制度と現状―医療及び支援のあり方―」	
「認知症高齢者は、どのようにイメージされているのか？」	
「色カルタ・クオリアゲームの実践報告」	
「Immediate Effects of Repetitive Wrist Extension on Grip Strength in Patients with Distal Radial Fracture」	
「A病院の野外訓練」	
「これからのチーム医療」	副学長講演

⑨生涯学習事業

事業名 (主体)	喀痰吸引等研修	介護職員初任者研修 (通信併用)	医療事務講座 (初級：通信)	ケアマネ試験対策講座 (通信)	ケアプラン作成クラス (通信)	社会福祉専攻科 (通信)	社会福祉士実習指導者 講習会	看護師実習指導者養成 講習会	介護福祉士実務者研修
	神奈川県 保健福祉局	神奈川県 保健福祉局	湘南ふれあい学園	湘南ふれあい学園	湘南ふれあい学園	神奈川県 保健福祉局	関東信越厚生局	厚生労働省	神奈川県 保健福祉局
期 日	H27.7.13～8.26	【第1回】 H27.5.18～ 7.10 【第2回】 H27.7.27～ 9.30 【第3回】 H27.10.26 ～12.21 【第4回】 H28.2.1～ 3.30	【初級】 H27.6月～12 月	H27.8.27～10.1	H27.10.8～10.29	毎年4月～翌年12月末	H28.1.30、2.6	H27.9.3～12.7	H28.3.1～8.31
期 間	講義7日(50時間)、 演習1日、実習1日	講義17日、実習2日	【初級】 6ヶ月間	通信制3回 模試1日	通信制3回 講義1日	1年9ヶ月間	講義2日間	250時間	6ヶ月間
受講料	100,000円 (テキスト代別)	60,000円 (テキスト代込)	【初級】 39,000円 (テキスト代込)	3,000円	3,000円	350,000円 (テキスト代別)	8,000円 (テキスト代別)	80,000円 (テキスト代別)	①無資格者125,000 円 ②おもひかえ2級/介 護職員初任者研修 修了者105,000円 ③介護職員基礎研 修修了者30,000円
受講生 (定員)	20名 (20名)	第1回：20名 第2回：11名 第3回：10名 第4回：19名 (毎回20名)	16名 (【初級】25名)	12名 (30名)	15名 (30名)	127名 (80名)	17名 (20名)	20名 (40名)	28名 (30名)
受講対象者	介護従事者	満16歳以上で介護・福 祉関係への就業を希望 している者	ふれあいグループ職員	ふれあいグループ職員	ふれあいグループ職員	1) 次のいずれかに該 当 ①大学等を卒業した方 ②3年制の短期大学等 を卒業し、指定施設に おける相談援助の実務 経験が1年以上ある方 ③2年制の短期大学等 を卒業し、指定施設に おける相談援助の実務 経験が2年以上ある方 ④指定施設における相 談援助の実務経験が4 年以上ある	社会福祉士で、今後実 習指導の予定のある者	以下の①～④の要件を 満たす者 ①保健師、助産師、看 護師の資格取得後3年 以上の実務経験を有 し、現在実習指導者の 任にある者又は今後実 習指導者になる予定の ある者 ②今後臨地実習を受け 入れる予定のある病 院、施設で勤務する者 で、施設から推薦され た者 ③積極的に研修に取り 組む意欲があり、本学 園が講習会を受けるに ふさわしいと認めた者	1) 介護業務に従事し ている者又は従事予 定の者で、介護福祉士 の資格取得を目指す者 (2) 男女年齢を問わ ず、心身ともに健全で ある者 (3) スクーリングに 参加可能な者 (4) 高等学校卒業以 上の学力があると認め られる者。
取得資格	喀痰吸引等研修修了	介護職員初任者研修	ふれあい医療事務管理 士(初級・中級)	-	-	社会福祉士国家試験受 験資格	社会福祉士実習指導者 講習修了	看護師実習指導者養成 講習会修了	介護福祉士国家試験受 験資格

介護福祉士実務者研修の指定を受けた。受講生に対して添削課題送付以外でも頻回に連絡を取ることで、受講生全員が修了できるようにする。

平成27年度は医療事務講座(中級)を開催することができなかった。

介護職員初任者研修の定員充足率が、開催回によってばらつきがあるので、毎回定員充足を目標とし、広報活動の効率化を再検討する。また、多くの修了者をふれあいグループの施設に輩出し活躍できるようにするため、実践的な研修内容となるようふれあいグループ職員である講師陣と密に調整を行う。

看護師実習指導者講習会、社会福祉士実習指導者講習会は、それぞれの資格者養成に欠くことのできない指導者を養成する学校法人にとって重要な講習会であるため、次年度以降も開催できるように、早期から講師の調整・依頼を実施する。

⑩環境への対応

湘南ふれあい学園全体で「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ、作法」の6Sにもとづく活動を毎年実践している。6S活動は、各部署ごとに毎月のテーマに沿って各施設ごとにミーティングを行い、目標を立て、全職員が参画して実行・継続、習慣化する活動です。この活動を実践することで、教育関係者としてのモラル・マナーの向上や職場の体質改善が図られ、また、無駄・ムラ・無理を省くことにつながった。

⑪PDC活動

学校法人湘南ふれあい学園では、PDC活動を積極的に実施している。目標達成のために目標を立て、それに向けた実行計画に基づいて行動を起こし、結果をチェックして達成度の検証を行っている。このサイクルによって、個人及び教育施設全体の目的達成へと連鎖している。教務分野では、教育課程の検証、学生指導、実習指導及び国家試験対策等に活かされ、また、事務分野では、学生募集・広報活動、学生及び関係者へのサービス対応などに活かすことができ、個々が行っている業務を客観的に見つめ、業務の改善、課題解決につながった。

⑫学生及び教職員のモラル・マナー改善への取り組み

平成27年度は、SNSの利用について、利便性が良い反面、危険性を伴うこともあり、本学園としても不適切な利用が散見されるようになり、教職員のみに課していた湘南ふれあい学園の行動基準、行動指針並びに職場服務心得を非常勤講師にも広げて、教職員と学生、学生同士のSNSの使用方法について再度確認し、節度ある行動を促した。将来の医療人を養成する立場、また、医療人として患者様に対応していく者として、今後も学園全体の課題として状況把握に努め、研修会等を通じて啓発活動を継続する予定である。

3 施設の状況

(1) 平成28年3月現在の学校法人所有施設の所在等

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地・学校名	校地(m ²)	施設等	面積(m ²)	摘要
横浜市戸塚区汲沢 2-26-14 みどり幼稚園	2,306.00	園舎	849.97	自己所有
茅ヶ崎市今宿 390番地 茅ヶ崎看護専門学校	1,477.64	校舎	2,893.32	自己所有
茅ヶ崎市南湖 1-6-11 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	3,752.04	校舎	5,725.54	自己所有
相模原市南区上鶴間本 町3-18-27 医療ビジネス観光情報専門学校	1,106.50	校舎	4,360.56	自己所有
下田市柿崎289番地 下田看護専門学校	4,821.43	校舎	4,620.75	自己所有
横浜市戸塚区上品濃 16-18 湘南医療大学	7,881.98	校舎	14,645.14	校地 (借地) 校舎 (自己所有/一部借用)

(2) 主な施設設備の取得及び処分

主な施設設備の取得状況は次のとおりである。

大学校舎体育館空調工事費及びLAN工事費	19,191千円
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校空調工事費	33,138千円

湘南医療大学教育用備品・校具（設置計画平成27年度分及び変更計画分） 121,727千円
各専門学校及び幼稚園教育用備品・校具 6,874千円

主な施設の処分状況は次のとおりである。

図書の除却	430千円
備品の除却	2,634千円

貸借対照表

平成28年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,697,166,872	7,766,995,772	△ 69,828,900
有形固定資産	7,690,246,085	7,759,914,592	△ 69,668,507
土 地	1,324,879,424	1,324,879,424	0
建 物	5,700,070,312	5,859,372,658	△ 159,302,346
構築物	175,814,703	188,072,630	△ 12,257,927
教育研究用機器備品	333,098,301	245,637,403	87,460,898
管理用機器備品	37,608,808	41,144,358	△ 3,535,550
図 書	117,253,286	99,701,300	17,551,986
車 輦	1,521,251	1,106,819	414,432
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	6,920,787	7,081,180	△ 160,393
施設利用権	5,518,197	6,064,610	△ 546,413
出資金	480,000	420,000	60,000
長期貸付金	805,810	120,000	685,810
敷金	50,000	420,000	△ 370,000
預託金	66,780	56,570	10,210
流動資産	3,159,400,019	3,242,767,508	△ 83,367,489
現金預金	2,776,746,230	2,550,453,469	226,292,761
未収入金	24,538,259	330,092,455	△ 305,554,196
前払金	2,303,324	2,236,280	67,044
仮払金	503,945	5,287	498,658
収益事業勘定	355,308,261	359,980,017	△ 4,671,756
資産の部合計	10,856,566,891	11,009,763,280	△ 153,196,389

(単位:円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,625,728,098	1,701,521,030	△ 75,792,932
長期借入金	1,503,609,504	1,607,578,040	△ 103,968,536
長期未払金	43,754,194	24,448,090	19,306,104
退職給与引当金	78,364,400	69,494,900	8,869,500
流動負債	1,192,543,123	1,287,448,373	△ 94,905,250
短期借入金	103,968,536	103,968,536	0
未払金	107,028,058	345,052,806	△ 238,024,748
前受金	962,347,000	830,370,500	131,976,500
預り金	19,199,529	8,056,531	11,142,998
負債の部合計	2,818,271,221	2,988,969,403	△ 170,698,182

純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	8,373,967,900	7,909,760,571	464,207,329
第1号基本金	8,265,967,900	7,801,760,571	464,207,329
第4号基本金	108,000,000	108,000,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△ 335,672,230	111,033,306	△ 446,705,536
純資産の部合計	8,038,295,670	8,020,793,877	17,501,793
負債及び純資産の部合計	10,856,566,891	11,009,763,280	△ 153,196,389

資 金 収 支 計 算 書

平成27年 4月 1日から
平成28年 3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,493,798,600	1,504,493,878	△ 10,695,278
授業料収入	1,010,451,000	1,020,453,000	△ 10,002,000
入学金収入	141,940,000	141,851,080	88,920
実験実習料収入	40,800,000	40,950,000	△ 150,000
施設設備資金収入	273,285,000	273,840,000	△ 555,000
暖房費収入	550,000	540,750	9,250
諸費収入	7,102,600	7,102,600	0
付属教育事業収入	19,670,000	19,756,448	△ 86,448
手数料収入	63,283,000	73,219,940	△ 9,936,940
入学検定料収入	34,990,000	42,044,000	△ 7,054,000
試験料収入	4,302,000	7,139,300	△ 2,837,300
証明手数料収入	511,000	606,640	△ 95,640
諸費収入	15,600,000	15,600,000	0
専攻科検定料収入	55,000	30,000	25,000
実習費負担金収入	7,825,000	7,800,000	25,000
寄付金収入	79,100,660	79,200,660	△ 100,000
一般寄付金収入	79,100,660	79,200,660	△ 100,000
補助金収入	127,544,000	130,787,329	△ 3,243,329
都道府県補助金収入	118,759,000	120,843,433	△ 2,084,433
市町村補助金収入	8,785,000	9,943,896	△ 1,158,896
付随事業・収益事業収入	56,927,400	77,336,263	△ 20,408,863
補助活動事業収入	35,689,000	41,766,341	△ 6,077,341
付帯事業収入	2,941,400	4,148,738	△ 1,207,338
教材料収入	6,350,000	7,377,449	△ 1,027,449
業務受託収入	9,947,000	9,496,700	450,300
収益事業収入	2,000,000	14,547,035	△ 12,547,035
受取利息・配当金収入	1,110,000	513,412	596,588
その他の受取利息・配当金収入	1,110,000	513,412	596,588
雑収入	25,591,000	34,509,856	△ 8,918,856
施設設備利用料収入	17,487,000	19,875,970	△ 2,388,970
研究関連収入	0	292,023	△ 292,023
その他の雑収入	8,104,000	14,341,863	△ 6,237,863
前受金収入	992,933,000	962,347,000	30,586,000
授業料前受金収入	662,025,500	586,860,000	75,165,500
入学金前受金収入	141,940,000	121,795,000	20,145,000
実験実習料前受金収入	24,400,000	62,660,000	△ 38,260,000
施設設備資金前受金収入	162,642,500	187,620,000	△ 24,977,500
その他前受金収入	0	1,537,000	△ 1,537,000
実習費負担金前受金収入	1,925,000	1,875,000	50,000
その他の収入	338,092,455	341,395,453	△ 3,302,998
前期末未収入金収入	330,092,455	329,882,455	210,000
預り金受入収入	8,000,000	11,142,998	△ 3,142,998
敷金回収収入	0	370,000	△ 370,000
資金収入調整勘定	△ 857,720,500	△ 854,698,759	△ 3,021,741
期末未収入金	△ 27,350,000	△ 24,328,259	△ 3,021,741
前期末前受金	△ 830,370,500	△ 830,370,500	0
前年度繰越支払資金	2,550,453,469	2,550,453,469	0
収入の部合計	4,871,113,084	4,899,558,501	△ 28,445,417

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,030,587,000	1,012,347,576	18,239,424
教員人件費支出	776,721,000	767,746,299	8,974,701
職員人件費支出	244,706,000	235,574,577	9,131,423
役員報酬支出	3,960,000	3,960,000	0
退職金支出	5,200,000	5,066,700	133,300
教育研究経費支出	300,019,000	298,448,099	1,570,901
消耗品費支出	43,069,000	43,068,277	723
光熱水費支出	48,836,000	48,835,706	294
旅費交通費支出	6,293,000	6,292,988	12
奨学費支出	35,100,000	35,095,000	5,000
福利費支出	9,093,000	9,092,824	176
通信費支出	5,574,000	5,573,492	508
印刷製本費支出	3,160,000	3,159,394	606
修繕費支出	23,493,000	23,492,439	561
損害保険料支出	5,650,000	5,649,367	633
賃借料支出	8,143,000	8,102,642	40,358
報酬委託手数料支出	65,257,000	65,256,658	342
保健衛生費支出	512,000	6,608	505,392
行事費支出	5,627,000	5,626,954	46
実習費支出	12,630,000	11,841,650	788,350
研修費支出	272,000	183,600	88,400
教材費支出	11,470,000	11,468,933	1,067
給食費支出	10,000,000	9,861,759	138,241
雑費支出	5,840,000	5,839,808	192
管理経費支出	269,216,000	251,811,264	17,404,736
消耗品費支出	18,448,000	18,447,795	205
光熱水費支出	9,652,000	8,875,772	776,228
旅費交通費支出	6,666,000	6,665,497	503
福利費支出	9,900,000	8,454,780	1,445,220
通信費支出	11,608,000	11,607,262	738
印刷製本費支出	16,487,000	16,486,651	349
修繕費支出	7,704,000	5,699,424	2,004,576
損害保険料支出	2,040,000	1,864,508	175,492
賃借料支出	7,738,000	5,120,518	2,617,482
公租公課支出	10,200,000	7,284,635	2,915,365
広報費支出	73,794,000	72,762,100	1,031,900
諸会費支出	2,680,000	2,464,730	215,270
渉外費支出	160,000	17,320	142,680
報酬委託手数料支出	79,582,000	76,960,753	2,621,247
負担金支出	245,000	45,000	200,000
実習費支出	1,000,000	84,800	915,200
研修費支出	1,140,000	512,868	627,132
教材費支出	1,900,000	1,030,843	869,157
給食費支出	4,872,000	4,871,138	862
車両燃料費支出	1,280,000	901,156	378,844
雑費支出	2,120,000	1,653,714	466,286
借入金等利息支出	43,263,000	41,575,388	1,687,612
借入金利息支出	43,263,000	41,575,388	1,687,612
借入金等返済支出	103,974,000	103,968,536	5,464
借入金返済支出	103,974,000	103,968,536	5,464

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
施設関係支出	73,000,000	55,771,744	17,228,256
建物支出	71,500,000	55,771,744	15,728,256
構築物支出	1,500,000	0	1,500,000
設備関係支出	154,578,000	143,521,054	11,056,946
教育研究用機器備品支出	132,946,000	128,374,031	4,571,969
管理用機器備品支出	2,681,000	2,680,412	588
図書支出	18,108,000	11,623,930	6,484,070
車両支出	843,000	842,681	319
資産運用支出	150,000	70,210	79,790
その他の固定資産支出	100,000	60,000	40,000
預託金支出	50,000	10,210	39,790
その他の支出	349,389,086	343,868,822	5,520,264
貸付金支払支出	1,000,000	685,810	314,190
前期末未払金支払支出	345,052,806	345,052,786	20
収益事業勘定支出	0	△ 4,671,756	4,671,756
前払金支払支出	2,336,280	2,303,324	32,956
仮払金支払支出	1,000,000	498,658	501,342
予備費	(2,250,000)		
	12,750,000		12,750,000
資金支出調整勘定	△ 99,500,000	△ 128,570,422	29,070,422
期末未払金	△ 97,000,000	△ 126,334,142	29,334,142
前期末前払金	△ 2,500,000	△ 2,236,280	△ 263,720
翌年度繰越支払資金	2,633,686,998	2,776,746,230	△ 143,059,232
支出の部合計	4,871,113,084	4,899,558,501	△ 28,445,417

注 記 予備費の使用内訳

科目	
資産運用支出	150,000
その他の固定資産支出	100,000
預託金支出	50,000
その他の支出	2,100,000
貸付金支払支出	1,000,000
前払金支払支出	100,000
仮払金支払支出	1,000,000
合計	2,250,000

事業活動収支計算書

平成27年 4月 1日から
平成28年 3月31日まで

(単位:円)

	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		学生生徒等納付金	1,493,798,600	1,504,493,878	△ 10,695,278
		授業料	1,010,451,000	1,020,453,000	△ 10,002,000
		入学金	141,940,000	141,851,080	88,920
		実験実習料	40,800,000	40,950,000	△ 150,000
		施設設備資金	273,285,000	273,840,000	△ 555,000
		暖房費	550,000	540,750	9,250
		諸費	7,102,600	7,102,600	0
		付属教育事業収入	19,670,000	19,756,448	△ 86,448
		手数料	63,283,000	73,219,940	△ 9,936,940
		入学検定料	34,990,000	42,044,000	△ 7,054,000
		試験料	4,302,000	7,139,300	△ 2,837,300
		証明手数料	511,000	606,640	△ 95,640
		諸費	15,600,000	15,600,000	0
		専攻科検定料	55,000	30,000	25,000
		実習費負担金	7,825,000	7,800,000	25,000
		寄付金	79,350,660	85,798,510	△ 6,447,850
		一般寄付金	79,100,660	79,200,660	△ 100,000
		現物寄付	250,000	6,597,850	△ 6,347,850
		経常費等補助金	127,594,000	130,787,329	△ 3,193,329
		国庫補助金	50,000	0	50,000
		都道府県補助金	118,759,000	120,843,433	△ 2,084,433
		市町村補助金	8,785,000	9,943,896	△ 1,158,896
		付随事業収入	56,927,400	62,789,228	△ 5,861,828
		補助活動事業収入	35,689,000	41,766,341	△ 6,077,341
		付帯事業収入	2,941,400	4,148,738	△ 1,207,338
		教材料収入	6,350,000	7,377,449	△ 1,027,449
		受託業務収入	9,947,000	9,496,700	450,300
		収益事業収入	2,000,000	0	2,000,000
		雑収入	25,591,000	34,509,856	△ 8,918,856
		施設設備利用料収入	17,487,000	19,875,970	△ 2,388,970
		研究関連収入	0	292,023	△ 292,023
		その他の雑収入	8,104,000	14,341,863	△ 6,237,863
		教育活動収入計	1,846,544,660	1,891,598,741	△ 45,054,081

教育活動収支

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,037,627,000	1,021,217,076	16,409,924
教員人件費	776,721,000	767,746,299	8,974,701
職員人件費	238,706,000	235,574,577	3,131,423
役員報酬	4,000,000	3,960,000	40,000
退職金	5,200,000	1,231,200	3,968,800
退職給与引当金繰入額	13,000,000	12,705,000	295,000
教育研究経費	558,779,000	547,023,745	11,755,255
消耗品費	42,999,000	43,148,277	△ 149,277
光熱水費	48,836,000	48,835,706	294
旅費交通費	6,298,000	6,292,988	5,012
奨学費	35,100,000	35,095,000	5,000
福利費	9,150,000	9,092,824	57,176
通信費	5,591,000	5,573,492	17,508
印刷製本費	3,240,000	3,159,394	80,606
修繕費	23,500,000	23,492,439	7,561
損害保険料	5,679,000	5,649,367	29,633
賃借料	8,150,000	8,102,642	47,358
報酬委託手数料	65,451,000	65,256,658	194,342
保健衛生費	512,000	6,608	505,392
減価償却額	258,060,000	248,495,646	9,564,354
行事費	5,651,000	5,626,954	24,046
実習費	12,780,000	11,841,650	938,350
研修費	272,000	183,600	88,400
教材費	11,500,000	11,468,933	31,067
給食費	10,000,000	9,861,759	138,241
雑費	6,010,000	5,839,808	170,192
管理経費	298,370,000	278,724,074	19,645,926
消耗品費	18,649,000	18,447,795	201,205
光熱水費	12,180,000	8,875,772	3,304,228
旅費交通費	6,760,000	6,665,497	94,503
福利費	9,900,000	8,454,780	1,445,220
通信費	11,744,000	11,607,262	136,738
印刷製本費	16,500,000	16,486,651	13,349
修繕費	7,704,000	5,699,424	2,004,576
損害保険料	2,040,000	1,864,508	175,492
賃借料	7,738,000	5,120,518	2,617,482
公租公課	10,200,000	7,284,635	2,915,365
広報費	73,794,000	72,762,100	1,031,900
諸会費	2,680,000	2,464,730	215,270
渉外費	160,000	17,320	142,680
報酬委託手数料	78,482,000	76,960,753	1,521,247
負担金	245,000	45,000	200,000
減価償却額	26,954,000	26,912,810	41,190
実習費	1,000,000	84,800	915,200
研修費	1,140,000	512,868	627,132
教材費	1,900,000	1,030,843	869,157
給食費	5,200,000	4,871,138	328,862
車両燃料費	1,280,000	901,156	378,844
雑費	2,120,000	1,653,714	466,286
教育活動支出計	1,894,776,000	1,846,964,895	47,811,105
教育活動収支差額	△ 48,231,340	44,633,846	△ 92,865,186

事業活動支出の部

教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	1,110,000	513,412	596,588
		その他の受取利息・配当金	1,110,000	513,412	596,588
		その他の教育活動外収入	2,000,000	14,547,035	△ 12,547,035
		収益事業収入	2,000,000	14,547,035	△ 12,547,035
		教育活動外収入計	3,110,000	15,060,447	△ 11,950,447
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	43,263,000	41,575,388	1,687,612
		借入金利息	43,263,000	41,575,388	1,687,612
		教育活動外支出計	43,263,000	41,575,388	1,687,612
		教育活動外収支差額	△ 40,153,000	△ 26,514,941	△ 13,638,059
		経常収支差額	△ 88,384,340	18,118,905	△ 106,503,245
特別収支	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	1,000,000	617,112	382,888
		その他の資産処分差額	1,000,000	617,112	382,888
		特別支出計	1,000,000	617,112	382,888
		特別収支差額	△ 1,000,000	△ 617,112	△ 382,888
[予備費]			(12,000,000)		
			3,000,000		3,000,000
		基本金組入前当年度収支差額	△ 92,384,340	17,501,793	△ 109,886,133
		基本金組入額合計	△ 450,901,000	△ 467,271,470	16,370,470
		当年度収支差額	△ 543,285,340	△ 449,769,677	△ 93,515,663
		前年度繰越収支差額	0	111,033,306	△ 111,033,306
		基本金取崩額	0	3,064,141	△ 3,064,141
		翌年度繰越収支差額	△ 543,285,340	△ 335,672,230	△ 207,613,110
(参考)					
		事業活動収入計	1,849,654,660	1,906,659,188	△ 57,004,528
		事業活動支出計	1,942,039,000	1,889,157,395	52,881,605

注 記 予備費の使用内訳

科目	
教育研究経費	11,000,000
減価償却費	11,000,000
資産処分差額	1,000,000
その他の資産処分差額	1,000,000
合計	12,000,000

財産目録

平成 28 年 3 月 31 日

(単位：千円)

区分	金額
資産額	
1 基本財産	7,690,246
土地	1,324,879
建物	5,700,070
構築物	175,815
教具・校具・備品	370,707
その他の基本財産	118,775
2 運用財産	3,166,321
現金預金	2,776,746
その他の運用財産	389,575
3 収益事業財産	96,666
資産総額	10,953,233
負債額	
1 固定負債	1,625,728
2 流動負債	1,192,543
3 収益事業負債	375,818
負債総額	3,194,089
正味資産	7,759,143

監 査 報 告 書

平成 28 年 5 月 23 日

学校法人 湘南ふれあい学園
理事会 御中

学校法人 湘南ふれあい学園

監事 金 井 清 吉



監事 竹 俣 耕 一



私たちは、学校法人湘南ふれあい学園の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人湘南ふれあい学園寄附行為第 8 条第 2 項に基づいて同学園の平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び損益計算書）を含め、学校法人湘南ふれあい学園の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決算書類等を閲覧するとともに、会計監査人と連携し、計算書類について検証を行うなど必要と思われる監査手段を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上